



## できごと

平成23年11月7日(月)～8日(火)、国際子ども図書館主催による児童文学連続講座が開催されました。

本講座を監修されている客員調査員の宮川健郎氏をはじめ、吉田新一氏、神宮輝夫氏、福本友美子氏、常光徹氏からお話をいただきました。日本児童文学が持つこれまでの文章技法、翻訳、民話や海外児童文学の読み継がれてきた作品、絵、タイポグラフィなど、様々な観点から「児童文学とことば」というテーマに沿ってお話しを伺いました。

児童書に関わる者として、“大人が子どもに作品を手渡す事”の意味の深さを改めて感じる講座になりました。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

## 子どもの本に関する賞

芥川賞や直木賞といった有名な文学賞は「おとな」が読書する際に、本を選ぶきっかけになることが多いと思いますが、子どもに手渡す本を選ぶ際にも、子どもの本に関する賞を受賞した作品を検討してみてもいいでしょうか。

今回は、この1年間に発表された子どもの本に関する賞の受賞作をまとめてみました。

出版された本が対象となる賞がある一方で、未発表作品を対象としたものでは、まだ受賞作が刊行されていない場合もあります。

また、海外の受賞作の場合には、翻訳されて日本で出版されるまでに時間がかかるものもあり、今回はコールデコット、ケイト・グリーンウェイの両賞とも、まだ翻訳版は出ていません。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

### ◇子ども図書研究室のテーマ展示◇

大規模改修工事のためお休みしています。

### ◇イベント情報◇

#### ◆グランシップ「えほんのひろば」

##### おはなしかいのごあんない

グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」では、下記の日程で定期的におはなしかいを開催しています。申込み不要、無料です。どうぞおでかけください。

「おはなしかい」

毎週木曜日：午前10時30分と午後3時から

第2・3日曜日：午前10時30分から

「0歳からのおはなしかい」

毎週火曜日：午前10時30分から

「おはなし劇場」(SPACによる朗読の会)

第4日曜日：午前10時30分から

\*4月～5月20日(日)まで、木曜日午前と日曜日のおはなしかいはお休みします。

\*国民の休日、その他臨時でおはなしかいをお休みすることがあります。

### ◇子ども図書研究室からのお知らせ◇

#### ◇3月中は閉室します◇

当館は、3月15日までの予定で大規模改修工事により休館しています。併せて子ども図書研究室も閉室していますが、子ども図書研究室の開室は、4月1日となります。現在、リニューアルオープンに向けて作業中です。ご不便をおかけしますが、4月までもうしばらくの間ご理解・ご協力をお願いいたします。

#### ◇4月にリニューアルオープンします◇

4月から、子ども図書研究室のレイアウトを変更し、子ども図書研究室内で、全点収集図書とは別に、貸出用に購入した図書を貸し出します。お子さんの入室はできませんが、どうぞご自宅でお子さんとゆっくり読書を楽しんでください。

5月からは、職員と利用者が一緒に、新刊について自由に語り合う、新刊サロン(仮称)を計画しています。子ども図書に詳しい方も、そうでない方も、子ども図書に興味のある方ならどなたでも大歓迎です。

リニューアルオープンに関する詳しい情報は、当館WEBサイト等で随時お知らせします。どうぞご期待ください。

## 児童文学連続講座 「児童文学とことば」報告

**講**座の1つである宮川健郎氏（武蔵野大学教育学部教授）の「児童文学のことば、児童文学というコミュニケーション」の内容について紹介します。

ことばのへだたりを超えて、大人と子どもがどのようにコミュニケーションできるか？について日本現代児童文学作品から“仮装”という言葉を使って考えていきました。



**ま**ず、日本児童文学のことばは1959年を境に変わっているとのこと。これは、小川未明を代表するいわゆる幼年童話を否定することから始まっているとしています。

これによって近代のことばは、対象を指示し限定する、抽象化され記号化されるようになりました。その結果、リアリズムの深化により、タブーの崩壊が起きています。児童文学として書きあげられるテーマが多様になり、読者層年齢を幼年から10代前半までに押し上げたとしています。



**大**人が子どもにことば（お話）を届けるのは難しい、と那須正幹氏が“遠くからおじさんが来た”という文を例に伝えています。

大人（作者）が言う“おじさん（年代）”や“遠く（距離）”は子どもの感覚とは同じではないということです。このへだたりを埋めるため、「100m向こうから40代くらいの男の人が来た」と那須氏は書くということでした。

子どもの感覚は、“一般的”ではなく、“自分”が基準になっているため、子どもの思いは大人にはわからないとしています。



**大**人と子どものコミュニケーションとして、作品を子どもに手渡すためにどのような技法が使われてきたか、について“仮装”ということばを使って考えてきました。

作品中の難しそうなことばや感情などを、お母さんのように補足説明をして、お話をスムーズに進める“「媒介者」の仮装”があるとされています。文例には松谷みよ子の『アカネちゃんのなみだの海』を挙げられました。



**子**どもの話しことばでお話を進め、読み手である子どもの認識と感受性へ近付こうとする“子どもの話しことばの仮装”も挙げられました。これには後藤竜二『天使で大地はいっぱいだ』、千葉省三『虎ちゃんの日記』をはじめ、近刊でも濱野京子『その角を曲がれば』、草野たき『反撃』など多くの作品でも試みられ、成功しているとしています。



**こ**の“仮装”ということば（概念）についても考察が述べられています。古田足日氏が“仮装”ということばには本体を隠すような響きがあるので“仮装”を使うことについて適当かどうかは評論を深める必要があるとしているのに対し、作者という大人がお話を進めるために行っている技法であって、作者は作品から意図的に隠れている。“仮装”ということばの利用に問題はないとしています。



**話**の途中、作品の中に「媒介者」が存在するように、作品と子どもの間にも媒介者という大人が必要であるとして、図書館員の重要性を述べられてもいました。

### 所蔵資料から

知識

『国際子ども図書館児童文学連続講座講義録



—日本の児童文学者たち』  
国立国会図書館  
2011年9月（閲覧室）

昨年度の連続講座をまとめた資料です。今年度もまとめられる予定です。（国際子ども図書館のHPでも公開予定）

（青山）

## 子どもの本に関する賞

児童文学賞にも少しずつ違いがあり、子ども向けの作品を選考の対象としたもの、子どもも大人も共有できる世界を描いた文学作品に贈られるもの、また、児童に向けた詩やノンフィクションに限定して贈られるものがあります。

創作活動の活性化を目指してすべての作家を対象に贈られる賞、画家に贈られる賞、新人作家の作品を発掘する目的で創設された賞や、顕著な功績をあげた個人や団体に贈られる賞など、様々な賞が設けられています。

下の表に、最近1年間に子どもの本に関する賞を受賞した作品をまとめました。

賞名	受賞作品 (*印は当館未所蔵)
小川未明文学賞大賞	『レンタルロボット』(滝井幸代/作 学研教育出版)
角川学芸児童文学賞	『さくらのつぼみがひらいたら……』(秋山りん/作 角川学芸出版) 『父さんは地球儀の上にいる』(加藤章子/作 角川学芸出版)
けんぷち絵本の里大賞	『シニガミさん』(宮西達也/作・絵 えほんの社)
講談社出版文化賞絵本賞	『ふたりのナマケモノ』(高畠純/作・絵 講談社)
五山賞絵画奨励賞	『アリとバッタとカワセミ』(イ・スジン/脚本・絵 童心社)
産経児童出版文化賞大賞	『ぶた にく』(大西暢夫/写真・文 幻冬舎エデュケーション)
小学館児童出版文化賞	『聖夜』(佐藤多佳子/著 文藝春秋) 『ソルハ』(帚木蓬生/著 あかね書房)
坪田譲治文学賞	『鉄のしぶきがはねる』(まはら三桃/著 講談社)
ニッサン 童話と絵本のグランプリ	『あやとユキ』(いながきふさこ/作 BL出版) * 『うみのそこのてんし』(松宮敬治/作・絵 BL出版) *
日本絵本賞大賞	『ものすごくおおきなプリンのうえて』 (二宮由紀子/文 中新井純子/絵 教育画劇)
日本児童文学者協会賞	『皿と紙ひこうき』(石井睦美/著 講談社) 『ヤマトシジミの食卓』(吉田道子/作 ポプラ社)
日本児童文芸家協会賞	『おじいちゃんが、わすれても…』(大塚篤子/作 ポプラ社)
野間児童文芸賞	『盆まねき』(富安陽子/著 偕成社)
ひろすけ童話賞	『うずらのうーちゃんの話』(かつやかおり/作 福音館書店)
福島正実記念SF童話賞	『とどけ! 夢へのストライク』(桜井まどか/作 岩崎書店) 改題
椋鳩十児童文学賞	『ピアチャーレ 風の歌声』(にしがきようこ/作 小峰書店)
コールデコット賞	『A Ball for Daisy』(クリス・ラシュカ/絵・文 未訳) *
ケイト・グリーンウェイ賞	『FAr THER』(グラハム・ベーカー・スミス/絵・文 未訳) *

## 所蔵資料から

文学

『盆まねき』



富安 陽子/作  
高橋 和枝/絵  
偕成社  
2011年7月

今回の野間児童文芸賞受賞作。8月のお盆には祖母の家に親戚が集まって、なっちゃんに戦争の話や不思議な話をきかせてくれる。でも、ある年のお盆に不思議な体験をして……。「お盆は一度死んだ人を心の中で生き続けさせるための行事」という言葉が心に響く一冊。

(杉田)



知識

『14歳からの精神医学』



宮田 雄吾／著  
日本評論社  
2011年10月

架空の人物による具体例を挙げて、摂食障害、うつ病などの心の病気、不登校やリストカットなどの問題行動について、症状、背景や原因、早期治療の大切さなどを分かりやすく解説し、ストレスへの対処法にも触れている。また、友だちや、さらには親が心の病気になった時の対処法も丁寧に書かれている。現在、精神科医として若者の診療に当たっているという著者は、自分が大切にすることを生活の中で見付け、今できることを行う事で、「生きぬく」ことができると、若い読者を励ます。【中学生から】（鈴木）

知識

『ずかんプランクトン』



清水 洋美／編著  
日本プランクトン学会／監修  
技術評論社  
2011年12月

プランクトンと呼ばれる生物の中から代表的なもの、特徴的なものを取り上げている。写真とイラストを使って、その姿や生態についてわかりやすく解説している。これほどの小さな生物にも多様な種類と複雑な仕組みがあることがよく理解できる。漠然としたプランクトンのイメージが驚くほど変わる。

プランクトンに関わる豆知識、採集、観察方法も説明しており、調べ学習の補助資料としても有効である。写真だけ見ても楽しい。【小学校高学年から】（青山）

文学

『ここがわたしのおうちです』



アイリーン・スピネリ／文  
マット・フェラン／絵  
渋谷 弘子／訳  
さ・え・ら書房  
2011年10月

星と詩の大好きな少女ダイアナは、両親と妹の4人家族で楽しく暮らしていた。そんなある日、お父さんが失業し、1人暮らしのおじいちゃんの家に移すことになった。この家が気に入っているし、親友のローズとも別れたくないしと、怒りと悲しみでいっぱいダイアナだったが、その気持ちを受けとめてくれるまわりの人たちに支えられ、少しずつ元気を取り戻していく。全編が自由詩の形式で書かれ、詩を拠り所とする少女の心がとてもよく表現されている作品である。【小学校中学年から】（小松）

絵本

『北風ふいてもさむくない』



あまん きみこ／文  
西巻 茅子／絵  
福音館書店  
2011年11月

かこちゃんと、きつね、うさぎ、ねずみのこは、それぞれすてきなマフラーを編んでもらった。歌いながら歩いていると、へびのこたちがさむいよう、と泣いているのに気付く。みんなで「しん」と考えるうち、ふとんを手作りすることを思いついて……。へびのこたちが喜んで様子にかこちゃんたちもうれしくなり、読み手にもあたたかさがじんわり伝わってくる。

初出は月刊『おおきなポケット』2007年12月号だが、イラストやレイアウトが多少変更されている。【小学校低学年から】（杉田）